

## 活動例14〔学び―表現―〕5歳児 1学期

### 『ダンボールで車を作ろう』

#### 育てたい力

- ・活動に必要なものを考えたり、工夫して作ったりする。
- ・素材の特性や扱い方を知って、イメージしたものを作る。

#### 経験させたい内容

- ・誕生会に使う車を作るのに適した素材を、友達と一緒に考える。
- ・友達と役割を分担して作業する。
- ・ダンボールの特性を知る。

#### 5歳児6月 事例

##### 〔クラスの実態〕

男児13名、女児10名、計23名。空き箱製作をしたり、大型積木でマシンを作ったり、ごっこ遊びの場を作ったりして、遊ぶことを楽しんでいる。しかし、遊びにかかわる大人を介して、自分の思いや考えを伝えることが多く、友達との結び付きが弱い。それぞれの言葉を大人が橋渡しをする援助をすることで、友達の思いに気付いたり、続けて遊ぶ気持ちをもったりするようになってきている。学級全体の取り組みとして、誕生日会での誕生児の入場方法をみんなで相談したり、必要なものを作ったりすることになり、それを楽しみにする気持ちをもつようになってきている。

##### 〔活動の流れ〕

誕生会で車に乗って入場することになり、どんな車がいいか、また、どんな材料を使うと作れるのかななどを考え、ブロックやカゴ、板、ダンボールなどの身近にあるいろいろなものを出し合った。それらの中から、昨年度の年長児が作っていた車を思い出し、自分たちで扱えるダンボールを使って、動かせる車をグループごとに作るようになった。いろいろな大きさのダンボール箱の中から、自分たちが乗ってちょうど良い大きさのダンボール箱を選び、それをキャスターの付いた台車の板の上に固定させるために、布ガムテープで貼って、車を作った。

##### 〔指導や環境の工夫〕

- ・イメージがわかりやすいように、見たことのある用具や素材を目に付きやすいところに置いたり、気付いて使えるように働きかけたりする。

#### 〔エピソード〕 『ダンボールで作ろうよ』

〔記録前の様子〕 お誕生日の友達を乗せてあげられる車を作るために、どんな材料を使ったらよいか、大きなカゴや板、ダンボールなど、自分たちの身近にあるものを集めて話し合っていた。



『ダンボールで作ろうよ』 どんなものを使って作るか話し合う中で、「キングブロックを使って作ろうよ。」という意見が出たが、教員が「でも、ブロックの車は、前に誕生会で乗ったことがあるから、違うもので作ろうよ。」と投げかけ、他のものを使って作ることになった。「それじゃ、タイヤの付いている大きなカゴを使ったらどうかね。」「カゴだと人が乗ったら割れちゃうよ。」「木で作ろうか。」「難しいよ。」など言い合いながら、自分たちの身近にある材料を出し合っていたが、なかなか適したものが見付けられずにいた。教員がキャスターの付いた台車を持ってくると、それを見たA児が「前の年長さんが、ダンボールの車を作っていたよ。」と思い出し、B児が「ダンボールならダンボールカッターで切れるよ。」と言った。C児が「ダンボールだと、紙だからすぐ壊れちゃうんじゃない」と言うと、A児が「年長さんの車に乗った時、頑丈だったよ。」と言ったので、みんなもダンボールで車を作ることに同意した。



7～8名のグループに分かれて、いろいろな大きさのダンボール箱を台車に乗せ、ちょうど良い大きさのものを選ぶ。A児が乗りやすい高さに切ろうとダンボールカッターで切り始めると、B児が、ダンボールが動かないように押さえ、D児もそばに行きダンボールを押さえた。切ったダンボールを台車に乗せると、C児がガムテープを持ってきてダンボール箱の下や周りに貼り始め、自然に、ガムテープを切る子と貼る子、ダンボールを押さえる子に分かれて作業した。出来上がった車に順番に乗って、ダンボールが外れないか試したり、ガムテープが取れそうな部分を補強したりした。

#### 予想される活動例

- ・電車作り
- ・看板作り
- ・お店屋さんごっこの商品作り
- ・劇遊びに使う大道具、小道具作り
- ・楽器作り

#### 〔小学校への学び〕

- ・素材の特性を知って製作する経験を積むことは、より自分のイメージに近い形を表現する方法を見付けることにつながる。